

主要事業概要		対象年度	令和 4年度		担当部署	観光課		
		事務事業名	観光振興事業			事業期間	継続	
事業性質	<input type="checkbox"/> 主要事業	<input checked="" type="checkbox"/> 総合戦略		<input type="checkbox"/> 行財政改革				
予算科目	会計	01 一般	款	07 商工費	項	01 商工費	目	03 観光振興費

事業費内訳 (単位:千円)	R 3決算額	R 4決算額
観光PR推進に要する経費		2,939
シティプロモーションに要する経費		5,897
事業費計		8,836

◆主たる事業概要

【令和 4年度事業概要と効果】

①観光PR推進に要する経費

県及び県観光協会・JR東日本・水郷筑波国定公園近隣関係市との連携及びソーシャルネットワークの活用により、県外も含めて広域的に本市観光を周知させるPR活動を行う。

【効果】本市の観光を周知させるとともに、本市ブランド「湖山の宝」の積極的PR形成により、地域知名度の向上に寄与した。

②シティプロモーションに要する経費

資源活用による地域の魅力を情報発信するなど、市の知名度とブランドイメージを高めるための取組みを総合的・戦略的に実施する。

【効果】パンフレットの作成配布、プロモーション動画の作成、LINEやInstagramのSNS等を活用した各種キャンペーンを展開したことで、観光交流人口や関係人口の増加、さらには地元製品の販路拡大など、活力ある地域社会の持続的な発展に繋がった。



かすみがうらクリスマスイベント



Instagramフォロワーキャンペーン



公式デザイン作成業務 (LINE)

【地方創生総合戦略の取組内容】

- 湖山の宝ブランドの発信強化
- 市推奨品「湖山の宝」の販促活動
  - ・かすみがうら未来づくりカンパニーとの連携・飲食店との連携によるプロモーション事業

【行財政改革の取組内容】

■指標

種類	指標内容	単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度
事務事業 成果指標	情報交流人口の拡大 (SNSフォロワー等登録増加数)	人	目標	500	550	605
			実績	226	2,457	-
総合戦略 成果指標 (KPI)	湖山の宝ブランド品の販売金額	%アップ	目標	5	5	5
			実績	▲ 7	18	-
行財政改革 成果指標			目標			
			実績			

◆評価 (C)

事務事業	妥当性評価	必要性	高	本市の認知度の向上や交流人口の拡大に寄与しているため非常に重要である。						
	有効性評価	事業成果	高	有効性をより高めるために生産者や観光関連事業者等と連携を図りながら、地域資源や地域商品を積極的に展開していく必要がある。						
	効率性評価	経費削減	無	市全体の魅力を伝えるプロモーション事業について、これ以上予算・人員ともに削減の余地はない。						
	課題	市の魅力を総合的にPRすることによって相乗効果が期待できるので、庁内体制を強化して市全体としての取組みが必要である。								
	部署内評価	市全体のプロモーションをより効果的な取組みとするために、専門部署の導入を含めた、連携体制の構築や、体制強化について検討する必要がある。				評価結果	A			昨年度結果
総合戦略	KPI進捗 (5年ごとの評価)	実施行程進捗 (全体評価)	やや順調	75%	目標到達度	成果有り	98.6%			
	成果と評価	動画特設サイト「かすみがうらにて。」で地域資源だけでなく地域産品の情報を発信。フォローキャンペーンの実施に併せて市の特産品のプロモーションを実施。				評価結果	A B			
行財政改革	進捗概要 (取組内容)	実施行程進捗 (単年度評価)			目標到達度					
	成果と評価 (令和 4年度)					評価結果	昨年度結果			
総合評価結果	内部評価	交流人口の増加と市全体の活性化を図るために、本市が持つ様々な魅力を効果的、戦略的に発信することで、市のイメージや知名度をより高めてもらいたい。				内部評価結果	A 昨年度結果			
	外部評価					外部評価結果	昨年度結果			

◆今後の改善方策や方向性 (A)

事務事業	事業判断	継続性	継続	長期的な活動継続による魅力発信の必要性					
	改善方策	本単独で活動するだけでなく近隣市町村と連携し、リピーター確保に繋がるような継続的な取組みの強化。また、地元企業や生産者との連携強化によって、地域資源や地場産品のより具体化した、わかりやすい周知方法の検討。							
	方向性	多様化している観光PRについて、常に状況に応じた方策の検討、PR方法の検証を行っていきながらより効果的な活動を行っていく。							
総合戦略	次年度取組計画	地域商社機能を担う、かすみがうら未来づくりカンパニーとの連携によって、ECサイトでの販促に注力するほか、SNSを活用した食のプロモーションに取り組む。							
行財政改革	次年度取組計画								
指摘事項	内部評価	プロモーション事業について、観光視点だけでなく市全体的な視点としての効果検証を行うように関係各課と連携をすること。							
	外部評価								

主要事業概要		対象年度	令和 4年度	担当部署	観光課			
		事務事業名	観光施設等管理運営事業		事業期間	継続		
事業性質	<input type="checkbox"/> 主要事業		<input type="checkbox"/> 総合戦略	<input type="checkbox"/> 行財政改革				
予算科目	会計	01 一般	款	07 商工費	項	01 商工費	目	04 観光施設費

事業費内訳 (単位:千円)	R 3決算額	R 4決算額
雪入ふれあいの里公園等管理運営に要す		38,328
歩崎公園管理運営に要する経費		14,728
交流センター管理運営に要する経費		29,191
水族館管理運営に要する経費		8,594
あゆみ庵管理運営に要する経費		397
農村環境改善センター管理運営に要する		3,922
艇庫管理運営に要する経費		324
事業費計		95,484

◆主たる事業概要

【令和 4年度事業概要と効果】

- ①雪入ふれあいの里公園等管理運営に要する経費
- ②歩崎公園管理運営に要する経費
- ③交流センター管理運営に要する経費
- ④水族館管理運営に要する経費
- ⑤あゆみ庵管理運営に要する経費
- ⑥農村環境改善センター管理運営に要する経費
- ⑦艇庫管理運営に要する経費

観光施設魅力向上のためそれぞれの施設を適切に維持管理を行うだけでなく、指定管理への委託を行いながら施設を有効活用することで、各種事業において民間活力と連携した新たな取組みを展開することができる。

【効果】それぞれの施設は、自然環境の豊かな公園や関連する施設等であり自然とのふれあいを求める来訪者へ癒しの空間を創出しています。また、付帯施設を活用した観光振興を推進することで、観光客の交流促進と地場製品の消費拡大に繋がり、更には市民の余暇や学術、教育・文化の発展及び観光の充実に寄与した。



雪入ふれあいの里公園ネイチャーセンター



かすみがうら市水族館



古民家江口屋

【地方創生総合戦略の取組内容】

【行財政改革の取組内容】

■指標

種類	指標内容	単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度
事務事業 成果指標	市交流センターのレストラン・マルシェ等の販売額	千円	目標	28,530	43,000	43,000
			実績	32,772	51,386	-
総合戦略 成果指標 (KPI)			目標			
			実績			
行財政改革 成果指標			目標			
			実績			

◆評価 (C)

事務事業	妥当性評価	必要性	高	それぞれの施設は観光拠点として重要な役割を担っており、来訪者へ本市の魅力を伝えるためには、観光拠点整備を含めた管理は非常に重要である。					
	有効性評価	事業成果	高	継続的に観光拠点の機能充実を実施しない場合は、入込観光客数の減少が懸念される。					
	効率性評価	経費削減	無	施設の目的を達成するために、指定管理者制度を利用し効率化を図っており現時点で予算・人員ともに削減の余地はない。					
	課題	観光拠点として施設整備を含めた管理を行うことは非常に重要であるが、施設の老朽化問題に対して将来的に施設を維持して運営していくのか、閉鎖するののかの大きな課題について、計画的に取り組んでいく必要がある。							
	部署内評価	観光拠点の整備は活力あるまちづくりを目指す活動と密接に関連しており、地域資源を活用した観光振興や地場製品の消費拡大にも繋がっている。また、指定管理者の企画やアイデアを生かした自主事業は多様化するニーズに対応した施設の付加価値の向上に貢献している。			評価結果	昨年度結果	A		
総合戦略	KPI進捗 (5年ごとの評価)	実施行程進捗 (全体評価)			目標到達度				
	成果と評価					評価結果	昨年度結果		
行財政改革	進捗概要 (取組内容)	実施行程進捗 (単年度評価)			目標到達度				
	成果と評価 (令和4年度)					評価結果	昨年度結果		
総合評価結果	内部評価	来訪者に対して地域資源や市の地場製品等の魅力を発信するためには、観光施設は必要不可欠となっており、施設を活用した魅力的なイベントの充実や適正な施設整備を行っていただきたい。			内部評価結果	昨年度結果	A		
	外部評価					外部評価結果	昨年度結果		

◆今後の改善方策や方向性 (A)

事務事業	事業判断	継続性	継続	施設管理内容等の精査による効率化の維持			
	改善方策	入込観光客数の維持・増加には継続的な施設整備は必要不可欠であることから、限られた予算内で施設の効率的な維持ができるよう検証を重ねる。					
	方向性	観光基本計画や歩崎地域観光振興アクションプランの内容を見直しながらブラッシュアップし、総合的な整備計画の検討と改修を含めた管理を行っていく。					
総合戦略	次年度取組計画						
行財政改革	次年度取組計画						
指摘事項	内部評価	継続的で効率的な維持管理を行うために、適切に効果検証が図れるように検証を重ねること。					
	外部評価						

主要事業概要		対象年度	令和 4年度	担当部署	観光課			
		事務事業名	観光交流促進事業		事業期間	継続		
事業性質	■ 主要事業		■ 総合戦略	□ 行財政改革				
予算科目	会計	01 一般	款	07 商工費	項	01 商工費	目	05 観光交流費

事業費内訳 (単位:千円)	R 3決算額	R 4決算額
観光交流推進に要する経費		25,959
観光サイクリングに要する経費		17,780
事業費計		43,739

◆主たる事業概要

【令和 4年度事業概要と効果】

①観光交流推進に要する経費

観光協会への補助金によって帆引き船操業やかすみがうらフェスタ（カヌー・サップ・秋ハイキング・星空観察会等）等各種イベントを開催する。また、本市の目指すべき観光や地域全体の観光振興のあり方を示す観光基本計画を策定する。

【効果】観光協会が主体となって本市の観光及び特産品を県内外へPRすることで市の認知度が高まり、イベント等の開催を通して交流人口の増加と地域の活性化を図り、ふるさと意識の高揚にも寄与した。

②観光サイクリングに要する経費

観光誘客や観光消費拡大、市民の外出機会増加を見据えた多角的なサイクリング関連事業を実施する。

- ・宿泊型サイクリング推進事業やサイクルポイント活用によるサイクリング振興事業、近隣4市との連携事業（ライドアラウンドや霞ヶ浦広域サイクルーズなど）

【効果】サイクリング環境の魅力拡散と併せ、サイクルツーリズムやアウトドアレジャーと、霞ヶ浦、里山などの自然や、文化財などの歴史的遺産、さらには農水産物といった地域資源を結び付けた取り組みによって、地域観光の魅力県内のみならず全国にPRした。



かすみがうら一周年型イベント



自転車・キャンプイベント



カヌー・SUPイベント

【地方創生総合戦略の取組内容】

- サイクリング・トレッキングツアーの実施
- 滞在型ツーリズムの実施検討

【行財政改革の取組内容】

■指標

種類	指標内容	単位		R 3年度	R 4年度	R 5年度
事務事業 成果指標	サイクリングアプリ利用者数	人	目標	-	2,000	2,000
			実績	213	3,070	-
総合戦略 成果指標 (KPI)	サイクリング・トレッキングイベント参加者数 (交流人口15,000人増)	人増加	目標	3,000	3,000	3,000
			実績	1,934	3,155	-
行財政改革 成果指標			目標			
			実績			

◆評価 (C)

事務事業	妥当性評価	必要性	高	果樹園や帆引き船などの地域産業の振興や観光資源を活用した魅力ある観光地づくりは地域の活性化を図る上で重要な事業である。						
	有効性評価	事業成果	高	事業の廃止や休止は交流人口等の減少に繋がり地域の活力が損なわれることから、観光交流を推進していく事業は非常に有効である。						
	効率性評価	経費削減	無	事業費や人件費を削ることは、事業実施の継続が困難になることから効率性を高めるための経費削減は困難である。						
	課題	体験型の観光を強化し滞在時間を増加させていくことで、市の特産品や農水産物の消費拡大に繋がる取り組みを官民連携して行っていく必要がある。								
	部署内評価	コロナ禍の中では事業展開や規模等を含めた見直しが必要であったが、今後は事業の継続性や費用対効果を高めていく取り組みを模索していく必要がある。					評価結果	昨年度結果		
総合戦略	KPI進捗 (5年ごとの評価)	実行程進捗 (全体評価)	やや順調	75%	目標到達度	成果不十分	43.85%			
	成果と評価	○コロナ禍によりイベントの開催形式が大幅に変更となり、規模の縮小化や日にちの分散化などがスタンダード化し、新たな湖上イベントや、里山での星空観察などの体験コンテンツを提供することができた。				評価結果	昨年度結果			
行財政改革	進捗概要 (取組内容)	実行程進捗 (単年度評価)			目標到達度					
	成果と評価 (令和4年度)						評価結果	昨年度結果		
総合評価結果	内部評価	観光事業の推進と観光資源の活用が、地域経済の更なる発展に繋がるよう観光協会会員や地元企業と連携する取組みを図りたい。				内部評価結果	昨年度結果			
	外部評価					外部評価結果	昨年度結果			

◆今後の改善方策や方向性 (A)

事務事業	事業判断	継続性	継続	各種事業との連携による効率化			
	改善方策	事業内容について情報の共有化					
	方向性	市として一体的な効果検証が図れるよう、観光課だけでなく関連部署と情報を共有化していきながら、効率的・効果的な事業実施につながるよう協議を重ねながら連携していく必要がある。					
総合戦略	次年度取組計画	○湖のエリアと山のエリアにおいて同様のサイクリングや滞在型ツーリズムを継続的に実施する。また、サイクリストを含むアウトドア志向層の誘客を進めるため、新たなアクティビティの導入を推進する。					
行財政改革	次年度取組計画						
指摘事項	内部評価	単発的なイベントではなく、継続性をもったイベントになるよう工夫しながら、効果検証を行っていくこと。					
	外部評価						